

平成30年度

教育委員会の事務の管理及び
執行状況に係る点検・評価報告書

釜石市教育委員会

目 次

はじめに	1
1 強く生き抜く子どもを育てるまちづくり（基本目標6）	3
① 地域との協働による特色ある教育活動の展開	4
② 生活・防災拠点としての教育環境整備	11
2 歴史文化やスポーツを生かしたまちづくり（基本目標7）	14
① 歴史遺産の活用と芸術文化の振興	14
3 絆と支えあいを大切にするまちづくり（基本目標2）	21
① 安心できる子育て環境の整備	21
② 学びが実践につながる生涯学習社会の形成	21
4 教育行政に関する事項	28
5 資料	29
「平成30年度教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価報告書」有識者からの意見聴取会意見（要点）	32

はじめに

- この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条に基づき、平成30年度の教育委員会の管理及び執行の状況に係る点検及び評価結果を取りまとめたものです。

点検及び評価に当たっては、平成23年12月22日策定の「釜石市復興まちづくり基本計画スクラムかまいし復興プラン」の進行管理と連動するよう、同計画の「復興まちづくりの基本目標」に基づいて整理しました。

- 点検及び評価は、2段階で実施しており、第1段階として、「釜石市復興まちづくり基本計画スクラムかまいし復興プラン」の7つの「基本目標」のうち、3つの「基本目標」における「取組項目」の結果を個別に評価した上で、第2段階として3つの「基本目標」のそれぞれを総合的に評価しました。評価の順番については、基本目標の順番によらず、学校教育に主眼を置いた順番としました。

なお、「取組項目」としての位置づけではないため、点検及び評価の対象ではありませんが、別途教育行政に関する事務や平成29年度から組織機構の見直しにより市長部局へ移管した事務についても取り組み状況をまとめています。

釜石市教育委員会委員名簿

委員	佐藤 猛 夫
委員	太 田 悦 子
委員	市 川 淳 子
委員	鈴 木 勝
教育長	佐 藤 功

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(参考)「釜石市復興まちづくり基本計画 スクラムかまいし復興プラン」(抜粋)

目指すべき釜石の将来像：三陸の大地に光輝き希望と笑顔があふれるまち釜石

○ 7つの基本目標 (点検・評価の対象：基本目標2、基本目標6及び基本目標7)

基本目標1：暮らしの安全と環境を重視したまちづくり

基本目標2：絆と支えあいを大切にするまちづくり

安心できる子育て環境の整備

(実施施策)・被災した幼稚園の整備

学びが実践につながる生涯学習社会の形成

(実施施策)・公民館や図書館など学習機能の早期復旧

・ライフステージに応じた学習機会の創出

基本目標3：生活の安心が確保されたまちづくり

基本目標4：人やもの、情報の交流拠点づくり

基本目標5：ものづくり精神が息づくまちづくり

基本目標6：強く生き抜く子どもを育てるまちづくり

地域との協働による特色ある教育活動の展開

(実施施策)・地域づくりに寄与する特色ある教育活動の推進

・教育関係機関と連携した心のケアの継続

生活・防災拠点としての教育環境整備

(実施施策)・防災機能や地域コミュニティの拠点となる学校の建設

・命を守る教育の推進

基本目標7：歴史文化やスポーツを生かしたまちづくり

歴史遺産の活用と芸術文化の振興

(実施施策)・橋野高炉跡のユネスコ世界遺産登録の推進と近代化遺産の活用

・郷土芸能の伝承や芸術・文化活動への支援

・埋蔵文化財の調査と指定文化財の復旧

スポーツの推進とスポーツ施設の拠点化

(実施施策)・スポーツを通じた市民の健康づくりの推進

・スポーツ施設の拠点化とスポーツイベントの誘致

1 強く生き抜く子どもを育てるまちづくり（基本目標6）

総合評価

・各校が地域と連携し、地域の特色について理解を深めることにより、郷土を知り、自他を大切にしようとする心を育てる教育活動を展開し、強く生き抜く力を育む教育を推進することができた。また、その地域の特色を各校の「いのちの教育」に生かすことにより、より地域に密着した内容の実践を進めることができた。

・「かまいし絆会議」によるRWC2019に向けた取組を通して、釜石の良さを理解し、将来の地域を支えるリーダーを育成することができた。

・東日本大震災による生活環境の変化や個々の課題等により、不安や悩みを抱える児童生徒に寄り添った心のケアを実践推進するため、教職員とスクールカウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカーが連携し、心のサポートを推進することができた。

・教育と防災のためのWi-Fi環境を整備することにより、ICTを活用した教育の充実を図るとともに、あらゆる災害で想定される避難所としての機能をより充実させることができた。

・農産物について、関係課の協力を得て、食材の確保利用につなげるとともに、市内小中学校にラグビーかぼちゃ（ロロン、白栗）の掲示資料を配布し、学校給食に取り入れることで、ラグビーワールドカップの気運醸成を図った。

また、「食に関する指導」により、児童生徒が地元食材への関心を深め、生産者への感謝の心を育むなど「食育」の推進が図られた。

・新共同調理場の設計業務を進め、令和2年4月の供用開始に向けた「学校給食センター整備事業」の進捗が図られた。

取組項目		個別評価
1	地域との協働による特色ある教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の協力を得るとともに、地域に働きかけたり、ともに活動したりしながら、各学校で「いのちの教育」等を推進した。 ・郷土芸能や産業学習、鉄に関する学習など、各学校地域の特色に応じた活動を工夫することができた。 ・平成29年度に組織し、活動を始めた「かまいし絆会議」において、RWC2019に向けた取組を通して、これまでの復興支援に対する感謝の気持ちを世界中に発信しようと様々な意見交流を行うことができた。 ・日常の心のサポートと心のサポート授業の両輪で児童生徒に寄り添った心のケアを推進することができた。スクールカウンセラーの支援を受け、個の状況に応じた対応を進めることができた。 ・食材納入産直の数を増やすなど地場産物の確保を図った。また、学校を訪問した「食に関する指導」を行うことで、児童生徒が地元食材への関心と生産者への感謝の心を育むなど「食育」の推進が図られた。
2	生活・防災拠点としての教育環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・各小・中学校の体育館にWi-Fi環境を整えることにより、日常の教育活動でICTを活用できる他、災害時には一般市民がWi-Fi環境を利用することができるようになった。 ・いのちの教育研修会を実施し、それを踏まえて各学校で実態に即した計画のもとに防災教育を核とした「いのちの教育」の実践に取り組み、強く生き抜く力を身に付けさせるよう努めた。 ・釜石市内小中学校の全教職員が参加する防災講演会を開催し、洪水・土砂災害についてすべての教職員が共通認識をもって「いのちの教育」を進めることにより、市内すべての小中学校での防災教育を核とした「いのちの教育」の取組を継承、発展させていくことを確認した。

・新共同調理場の建設に着手し、令和2年4月の供用開始に向けた整備事業の進捗が図られた。

【取組項目】

① 地域との協働による特色ある教育活動の展開

実施施策	平成30年度の主な取り組み内容と成果	今後の対応
<p>地域づくりに寄与する、各学校の特色をいかした教育の推進</p>	<p>□ 釜石市「いのちの教育」実践 「自他の命を守るために、主体的に行動することができる子ども」を育てるために、教育活動全体で防災教育を核とし、自他の命を尊重する心を培うとともに、地域の人や自然、自然災害に対する理解を深めながら、主体的に自分で判断し行動することができる資質や能力を育てる。」ことを目的に、実践を深めた。 【実施校】小学校：全9校・中学校：全5校 【事業実践例】 釜石市立釜石小学校 ①いのちの教育（授業等） ・「いのちをたいせつに」（1年 道徳） ・「かけがえのない生命」（2年 道徳） ・「津波の特徴を知ろう」（3年 総合的な学習） ・「災害時の情報について考えよう」（4年 特別活動） ・「いのちのコーナー」（5年 道徳） ・「いのちを大切にするには」（6年 道徳） ②防災訓練 ・地域と合同で行う下校時の避難訓練（津波発生を想定） 釜石市立双葉小学校 ①いのちの教育（授業等） ・震災に関する記録文作成（国語） ・ライフライン/地域の地形特性（社会・理科） ・異文化についての理解（外国語活動） ・地域の過去の災害/地域の災害特性（総合的な学習） ②避難訓練 ・釜石市津波避難訓練への参加協力を通して、町ぐるみで防災に取り組む意識を涵養するとともに、復興教育における【そなえる】の重点化を図る。 釜石市立白山小学校 ①いのちの教育（授業等） ・防災マップづくり ・防災危機管理課と連携した洪水・土砂災害についての学習 ・台風のしくみと被害について（3・4年特別活動） ②防災訓練 ・地域と合同で行う下校時の避難訓練（津波発生を想定） ③復興教育 ・つなごう集会（震災体験の語り継ぎ） 釜石市立平田小学校 ①いのちの教育（授業等） ・「家族のためによるこんでもらったよ」（1年 道徳） ・「ショートくん練をしてみよう」（2年 特別活動）</p>	<p>□ 今後も各学校の実態に即して推進していく。津波だけではなく自然災害（特に土砂災害）への意識を高めることと対策を家庭・地域と協働して推進していく。</p>

- ・「きん急地震速ほうにそなえる」(3年 特別活動)
- ・「とっさの判断と行動」(4年 特別活動)
- ・「急な大雨・かみなり・たつ巻」(5年 特別活動)
- ・「大きな災害ではライフラインがとまる」
(6年 特別活動)

②避難訓練

- ・地震、津波、下校時等を想定
- ・釜石警察署、防災危機管理課、平田駐在所、平田地区応援センター、スクールガード、学童保育と連携

釜石市立小佐野小学校

①いのちの教育(授業等)

- ・「自分の気持ちをうまく伝えよう」(1年 特別活動)
- ・「防災について調べよう」
(3年 総合的な学習の時間/社会)
- ・「着衣水泳」(5・6年 体育)

②避難訓練等

釜石市立甲子小学校

①いのちの教育(学年別重点目標)

- ・低学年
避難の際には、教員や近くの大人の指示に従って、適切な行動がとれるようにする。
- ・中学年
災害発生時に起こる様々な危険について知り、安全な行動がとれるようにする。
- ・高学年
状況に応じた身の守り方を自ら判断し、速やかに安全な行動がとれるようにする。

②いのちの教育(授業等)

- ・救命救急講習会(特別活動)
- ・小中合同地区集会

③避難訓練等

釜石市立鵜住居小学校

①いのちの教育(授業等)

- ・「津波について知ろう」(1年 特別活動)
- ・「津波の怖さを知ろう」(2年 特別活動)
- ・「災害から身を守ろう」(3年 総合的な学習)
- ・「地域の防災施設を知ろう」(4年 総合的な学習)
- ・「津波のメカニズムを知ろう」(5年 総合的な学習)
- ・「防災を広げよう」(6年 総合的な学習)

②避難訓練等

釜石市立栗林小学校

①いのちの教育(授業等)

- ・「心のサポート授業」(1年 特別活動)
- ・「震災で感じたこと」(2年 道徳)
- ・「家族で地震にそなえましょう」(3・4年 道徳)
- ・「防災学習」(5・6年 総合的な学習)

②避難訓練等

釜石市立唐丹小学校

①いのちの教育(学年別重点目標)

- ・低学年

教員や保護者など近くの大人の指示に従う等、適切な行動がとれるようにする。

- ・ 中学年
災害のときに起こる様々な危険について知り、自ら安全な行動がとれるようにする。
 - ・ 高学年
日常生活の中の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動がとれるようにするとともに、他者の安全に配慮することができるようにする。
- ②いのちの教育（授業等）
- ・ 「そのとき、どうする？」（1年 特別活動）
- ③避難訓練等
- ・ 休み時間の避難

釜石市立釜石中学校

- ①いのちの教育（5つの視点）
- ・ 社会貢献
復興への貢献、奉仕や思いやりの心、規範意識、自己肯定感、自己有用感
 - ・ 郷土愛
釜石の地域の特性への理解、地域への深い愛情
 - ・ 防災
自然災害への理解、災害への備えと実践力
 - ・ 命の大切さ
自他の命を大切にする心、いじめを許さない姿勢
 - ・ 安全
交通安全、学校安全への理解と実践力、心のケア
- ②避難訓練等
- ・ 火災への対応、津波への対応（中妻子供の家保育園と連携）

釜石市立甲子中学校

- ①いのちの教育（育てたい能力や態度）
- 【いきる】
- ・ 自己有用感を持ち、自主的に行動しようとする態度を養う。
 - ・ 困難を克服してやり抜こうとする態度を育てる。
 - ・ ストレスの対処法を身に付け、自らの心の健康を維持する能力を向上させる。
- 【かかわる】
- ・ ボランティアを進んで実践しようとする態度を養う。
 - ・ 自分と地域社会の関係について考える力を育てる。
 - ・ 郷土の自然や伝統・文化などにかかわりを持つようとする態度を育てる。
- 【そなえる】
- ・ 自然災害が発生するメカニズムについての理解を深める。
 - ・ 地域の過去の自然災害と復興の歴史や防災、減災についての理解を深める。
 - ・ 自然災害発生時の避難場所や避難方法などについて正しく理解し実践する力を充実させる。
- ②小中合同地区集会、救急救命講習会、避難訓練等

釜石市立釜石東中学校

①いのちの教育（育てたい資質・能力・態度）

【いきる】

- ・自他の生命を尊重する態度
- ・夢や希望を自ら持ち自らの未来を切り拓くために努力する態度
- ・自分のよさに気づき必要とされる存在であることの自覚

【かかわる】

- ・積極的、主体的に物事に関わろうとする態度
- ・郷土理解と郷土に対する誇りと愛着の深まり
- ・表現力、情報発信力
- ・コミュニケーション能力
- ・社会参画意識

【そなえる】

- ・自然災害の理解
- ・防災対策の理解
- ・防災意識の高揚
- ・防災活動への参加意欲
- ・非常時に生き抜く技能の習得

②避難訓練等

- ・小中合同下校時津波避難訓練
- ・小中合同防災訓練
防災危機管理課、地区応援センター、社会福祉協議会、市ボーイスカウト協会、日本赤十字社、釜石大槌地区行政事務組合消防本部と連携

釜石市立唐丹中学校

①年間計画

- ・4月 防災訓練①（小中合同）
- ・5月 防災講演会「いのちの授業」
- ・7月 救命救急講習会
- ・9月 防災訓練②（小中合同）
- ・11月 防災訓練③
- ・3月 防災訓練④

②「いわての復興教育」副読本の活用

- ・世界の主な災害（そなえる）
- ・命のゴールキーパー（いきる）
- ・復旧にあらず、復興なり（かかわる）
- ・災害時の情報と心理（そなえる）
- ・森の防波堤で命を守る（いきる）
- ・地域の教訓を語り継ぐ（かかわる）

③避難訓練等

釜石市立大平中学校

①実施計画

- ・5月 オリエンテーション
「いのちの授業」講演会
避難訓練
地域ボランティア清掃
- ・6月 救命救急学習会
- ・9月 防災授業
1年 トイレ設置実習
2年 キャップハンディ体験
3年 炊き出し実習

・10月 地域ボランティア（全校）

・11月 総合防災訓練

②防災授業（総合的な学習）

・簡易トイレ設置実習

・避難所デザイン

・米の炊き出し実習

③復興学習

・「地域交流」

あいぜんの里、平田公民館、鉄の歴史館、尾崎漁村センターとの生徒訪問による交流

□ かまいしコミュニティスクール推進事業

各小・中学校において、「地域に元気を与える」「郷土釜石の理解を深める」などの学校と地域と協働で取り組む活動等を推進した。

【実施校】小学校：全9校・中学校：全5校

【事業内容】

地域住民との交流活動、学校広報の発行と地域への配付、協働による花壇整備活動、地域清掃活動、地域施設を利用した体験活動、地域理解活動、地域行事を通じた交流活動、郷土芸能伝承活動、防災学習、鉄づくり、鉄の学習、ラグビー部活動、地域住民参加合同運動会等

□ かまいし絆会議

各小・中学校児童生徒の代表が集まり、RWC2019へ向け、市内小・中学生全員が関わるものとしての巨大壁画制作、歌づくり、ビデオメッセージの制作を進めた。

① 第1回専門部会 6/22（金） 生徒10名参加

<壁画>

・鶴住居復興スタジアムにモザイクアートを制作することに決定。

・モザイクアートのドット1つ1つにホタテの貝殻を使用することを確認した。

・デザインは大漁旗をモチーフとし、入れたい言葉、絵、場所等について募集し、プロに協力いただきデザインを決定することとした。

<歌・PRビデオ>

・歌については、各校から想いのメッセージを集め、プロに依頼して作詞・作曲してもらうことに決定。

・ビデオについては、どのような映像にしたいのか意見を出し合い、イメージをふくらませた。

② 第2回専門部会 7/17（火） 生徒10名参加

<壁画>

・絆会議までに、専門部会の中学生が大漁旗に入れるデザインの候補を考えることとした。

・候補の中から絆会議で案をしぼり、各校でアンケートを行う。集約したものについては小学校→中学校→委員会という流れで取りまとめる。

<歌・PRビデオ>

・夏休み明け、各学校よりフレーズを募集（感謝の手紙形式）することとした。

・ワールドカップのために歌を作るのではなく、ワールドカップは発表の場であることを確認した。（地域で歌い継がれるものにした）

・各小・中学校に思いを伝えるため、どのような歌に

□ 子どもたちが家族・地域に支えられていることや家族・地域に元気を与えていることを自覚し、そこで生きていることへの感謝と自己有用感をもてる取組を実践することで、家族・地域・郷土への誇りと愛情を育てる。

□ 巨大壁画は除幕式でお披露目済み。歌、ビデオメッセージについては発表の場をファンゾーンやスタジアム等として調整中。

したいのか、専門部員でイメージを共有した。

<その他>

スタジアムのオープニングイベント参加に向け、シーウェーブスの応援団の方々より応援歌や応援の仕方について学んだ。

- ③ 第1回かまいし絆会議 8/6(月) 児童生徒28名参加
- ・壁画デザインのためのワークショップを行った。
 - ・歌詞づくりのためのワークショップを行った。
 - ・各中学校区で行っている取組と、今後行いたい取組についての話し合いを行った。

<その他>

西日本豪雨災害への募金を行うこととした。

- ④ 第3回専門部会 9/18(火) 生徒10名参加

<壁画>

- ・絵、文字(メッセージ)に分けて作成する。
- ・デザイン案について、修正してほしい点を提案し、さらに検討してもらうこととした。

<歌・PRビデオ>

- ・歌詞に入れたいフレーズを決めた。
- ・歌の構成として、1番は支援してくれた人たちへの感謝、2番は身近な人への感謝、3番は家族への感謝とする。

- ⑤ 第4回専門部会 10/31(水) 生徒20名参加
新旧それぞれのリーダーが集まり、引き継ぎを行った。

<壁画>

- ・デザインの決定(3つの案から決定)
- ・今後のスケジュールの確認
- ・ホタテ貝殻の着色方法について
- ・サイズ

<歌・PRビデオ>

- ・歌詞の決定
- ・曲調の決定

- ⑥ 第2回かまいし絆会議 12/26(水) 児童生徒28名参加
- ・「いわて・かまいしラグビー応援団」受付書贈呈。
 - ・壁画についての説明を貝殻への色塗りワークショップ

・歌詞についての説明と歌の練習

・西日本豪雨災害への募金については岡山県高梁市の教育委員会を通じ、被災した学校、被災した児童が多く通う学校へ送っていただくこととした。

- ⑦ 第3回かまいし絆会議 2/15(金) 児童生徒28名参加
- ・ワールドカップに向けて取り組む活動について各中学校区ごとに話し合いを行った。

<釜石中学校区>

- ・小中連携して外国語によるあいさつ運動
- ・地域清掃
- ・各国のサポーターとなり、その国について調べてポスターにまとめ、地域に発信
- ・ラグビーに関するクイズ
- ・すでに実施していることとして全校生徒へのラグビー授業

<甲子中学校区>

- ・小中合同でモザイクアートの作成
- ・道路沿いのネットに応援メッセージ

<釜石東中学校区>

- ・クリーニング（地域清掃）
- ・高齢者、保育園児との交流
- ・避難路を表す地図
- ・すでに実施していることとして、スタジアムでの植樹

<唐丹中学校区>

- ・小中合同でのあいさつ運動
- ・国道清掃
- ・タグラグビー（ラグビークイズも同時に行う。）

<大平中学校区>

- ・地域清掃
- ・パンフレット作り
- ・すでに実施していることとして、カウントダウンカードを使用したのあいさつ運動、ラグビークイズ大会、全校タグラグビー大会、ラグビー選手との交流、ラグビーのルールやマナーについての学習会、ペットボトルキャップの回収

□ 学校給食への地場産物利用

農産物について、農林課の協力を得て産直の食材納入意思の確認を行い、作付け前協議のほか現状・課題について情報共有を図り、食材の確保利用につなげた。

農業委員会の協力を得て、市内小中学校にラグビーかぼちゃ（ロロン、白栗）の掲示資料を配布し、また、学校給食に取り入れることで、ラグビーワールドカップの気運醸成を図った。

<地場産食材利用状況>

項目	22年度	23年度	…	29年度	30年度
品目数	3	2		8	10
使用数量	1,588kg	1,183kg		2,936kg	1,988kg

□ 食に関する指導

児童生徒が正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付け食事を通して自ら健康管理ができるよう、栄養教諭により、各教科等における食に関する指導や試食会等を活用した指導に取り組んだ。

<指導実績>

項目	22年度	23年度	…	29年度	30年度
実施回数	29回	11回		58回	54回
（授業）	11回	6回		48回	47回
（その他）	18回	5回		10回	7回

□ 地場産物の作付け情報を共有して生産者・団体、関係課と協議しながら地場産物の活用を推進していく。

□ 学校と連携して、食に関する指導や試食会、食育だより等様々な機会を活用し「食育」の推進を図っていく。

<p>教育関係機関等との連携を図った心のケア継続</p>	<p><input type="checkbox"/> こころのケア事業 子どもたちやその保護者、教職員の震災によるストレス障害などを早期に把握し、教育現場におけるきめ細やかなケアに対応できるよう、継続的、長期的な心のケア対策を充実させるため専門職を配置した。</p> <p>【事業内容】 スクールカウンセラー（臨床心理士）が各小・中学校を巡回（県派遣2人、市非常勤職員1人）</p> <p>① こころのサポート研修会 4/20（金） ・今年度の釜石市におけるこころのサポートの推進について（説明） ・「こころのサポート授業」について（講義と演習） ・グループ協議（①各校の年間計画について②取組の成果と課題について）</p> <p>② 定期的な児童生徒、保護者、教職員との面談。</p> <p>③ スクールカウンセラーによる校内研修会での講義、サポート授業でのチームティーチング。</p> <p>④ 保護者、教職員へ、気になる児童生徒への対応について、日常における支援についてのアドバイスを行った。</p> <p>⑤ SSW や関係機関へつなげるきっかけ作りをしていた。</p> <p><input type="checkbox"/> 釜石市いじめ問題対策連絡協議会 関係機関（釜石警察署、宮古児童相談所、釜石市子ども課、釜石市少年センター）等が児童生徒のいじめに関する課題意識を共有し、いじめの未然防止と早期解決に資するため、年3回開催した。 第1回 7/18（水） 第2回 12/12（水） 第3回 2/27（水）</p>	<p><input type="checkbox"/> 児童生徒の心のケアは長いスパンで継続して取り組む必要がある。今後もスクールカウンセラー等の人的環境を整えとともに、教職員の研修を実施し、組織的・長期的に取り組む体制を確立し、心のケアを推進していく。</p> <p><input type="checkbox"/> いじめの未然防止または早期解決のために関係機関と連携しながら対応し、被害児童生徒の心のケア適切に行う。</p>
------------------------------	--	---

② 生活・防災拠点としての教育環境整備

実施施策	平成30年度の主な取り組み内容と成果	今後の対応
<p>防災機能や地域コミュニティの拠点となる学校の建設</p>	<p><input type="checkbox"/> 学校環境整備事業 教育環境の改善のため、必要な維持補修を行った。 ・甲子小学校外壁等（図工室雨漏）改修工事 ・小佐野小学校プールフェンス腐食改修工事 ・釜石中学校駐輪場サイクルポート設置工事 ・大平中学校屋外倉庫撤去及び新設工事 台風により被災した学校の復旧工事を行った。 ・小佐野小学校南側校舎屋根災害復旧工事 ・甲子中学校玄関屋根シート防水災害復旧工事</p> <p><input type="checkbox"/> 教育と防災のための Wi-Fi 環境整備事業 情報活用能力の育成や ICT 活用教育を推進し、災害時には住民等の避難時に活用できる、教育と防災の二面性をもった Wi-Fi 環境を市内全小・中学校の体育館に整備した。 【実施校】 小学校：全9校・中学校：全5校 【事業内容】 総務省の「無線システム普及支援事業費等補助金」を活用し平成31年1月から同年3月までの期間において、市内全小・中学校の体育館に Wi-Fi 環境を整備する工事を実</p>	<p><input type="checkbox"/> 適正な維持管理を行う。</p> <p><input type="checkbox"/> 平時の教育活動において有効に Wi-Fi 環境を活用できるよう、整備後も各小・中学校からの相談等に対応する。また、災害時に住民等に確実に Wi-Fi を開放できるよう準備を整える。</p>

	<p>施した。 平時はタブレット PC 等の ICT 機器と併せて活用することで、校内 LAN 及びインターネット等を活用した教育活動を体育館でも行うことが可能となった。また、災害時には体育館に避難した住民等に Wi-Fi を開放することで、避難時の情報収集等に活用することが可能となった。</p> <p>□ 学校給食センター整備事業 二つの施設で実施している調理場機能を集約した新共同調理場の建設に着手し、今年度中の完成に向けて事業の進捗が図られた。</p>	<p>□ 令和2年4月供用開始に向け学校給食調理業務等、新調理場の運営体制を整える。</p>
<p>命を守る教育の推進</p>	<p>□ いのちの教育 釜石市の学校教育の目標である、「強く生き抜く力」の育成を図るために、各小・中学校における担当教員が「いのちの教育」の重要性や今後の方向性について理解を深めることにより、防災教育を核とした「いのちの教育」の充実に資することを目的に研修会を実施した。また、各小・中学校での取組をまとめた「平成30年度いのちの教育実践事例集」を作成した。</p> <p>【事業内容】</p> <p>①第1回研修会 5/28（月） 14名参加 講義：釜石市の「いのちの教育」について （学校教育課 指導主事 太田 和成） 協議：各中学校区における「9年間を見据えたいのちの教育」について</p> <p>②第2回研修会 9/14（金） 15名参加 説明：学校版タイムライン作成の意義について （学校教育課 指導主事 太田 和成） 実践発表①：デジタル防災マップについて （釜石小学校 教諭 浅沼 琢哉・沖 拓） 実践発表②：地域・防災危機管理課と連携した防災マップづくり （白山小学校 教諭 富澤 広子） 協議：地域・関係機関と連携した「いのちの教育」の取組について</p> <p>③第3回研修会 2/12（火） 14名参加 説明・講義 ・洪水、土砂災害への地域防災の取組状況について ・洪水、土砂災害に備えるために必要なこと （釜石市 防災危機管理監 佐々木 亨） 協議：土砂災害対応に関わる今年度の取組の振り返りと次年度の活動計画等。</p> <p>□ 防災講演会 ・趣旨 洪水・土砂災害についてすべての教職員が共通認識をもって「いのちの教育」を進めることにより、市内すべての小中学校での防災教育を核とした「いのちの教育」の取組を継承、発展させていくことを通し、当市の児童・生徒の「強く生き抜く力」の育成に資する。</p>	<p>□ 教職員の人事異動により構成メンバーの入れ替えがあっても、継続的・発展的にいのちの教育が推進されるように研修会を行っていく。 そして、恕の精神を根幹とし、自他の命を守る子どもを育成するため、各校において小・中9年間を見据えた「いのちの教育」の充実・改善を図り、継続的に取り組んでいくようにする。</p>

- ・日時
平成30年6月4日（月） 15：00～16：30
- ・対象
釜石市立各小中学校全教職員
釜石市教育委員会及び教育委員会事務局職員
釜石市立幼稚園・こども園職員の希望者
* 一般市民にも公開
- ・会場
釜石市民ホール TETTO Aホール
- ・講師
東京大学大学院情報学環 特任教授
群馬大学 名誉教授
片田 敏孝

2 歴史文化やスポーツを生かしたまちづくり（基本目標7）

総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・第18回有形文化財公開事業を開催し、郷土の歴史や文化財の継承の一翼を担うことができた。 ・屋形遺跡が釜石市指定史跡となった。また、当遺跡の内容確認調査及び発掘調査報告書の刊行により、国指定に向けた保存・活用が一步進んだ。 <p>【世界遺産課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録3周年を記念した事業を実施した。 ・平成28年台風第10号被害復旧事業を遂行し、高炉場跡の復旧が完了した。あわせて平成29年度に策定した「橋野鉄鉱山保存・整備・活用に関する計画」に基づき、範囲内容確認調査を実施した。 ・国登録有形文化財旧釜石鉱山事務所は資料収集及び整理を行いながら、文化財活用のための事業を展開した。 	

取組項目	個別評価
1 歴史遺産の活用と芸術文化の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・被災した郷土芸能団体に民間法人等の助成金を利用した用具などの整備を行った。また、山車の格納庫や用具倉庫等の整備を対象とした郷土芸能復興支援事業を実施し、郷土芸能団体の再整備化に取り組んだ。 ・屋形遺跡が釜石市指定史跡となった。また、国指定に向けた内容確認調査を実施し、保存・活用の準備を行った ・埋蔵文化財について各種照会に対応し、被災者の住宅再建や復興公共事業等に伴う試掘調査、発掘調査（横瀬遺跡）等を実施した。また、遺跡の分布調査を行い、縄文時代前期の遺跡の一部を明らかにした。 ・第18回有形文化財公開事業を開催し、郷土の歴史や文化財の継承の一助となった。 <p>【世界遺産課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録3周年を記念し、通年で各種事業を実施した。 ・平成28年台風第10号被害復旧事業を林野庁・市建設課などと協議しながら進め、高炉場跡の復旧が完了するとともに報告書を刊行した。あわせて平成29年度に策定した「橋野鉄鉱山保存・整備・活用に関する計画」に基づき、範囲内容確認調査を実施した。 ・国登録有形文化財旧釜石鉱山事務所は資料収集及び整理を行いながら、文化財活用のための事業を展開した。

【取組項目】

① 歴史遺産の活用と芸術文化の振興

実施施策	平成30年度の主な取り組み内容と成果	今後の対応
郷土芸能の伝承や芸術・文化活動への支援	<input type="checkbox"/> 郷土芸能復興支援事業 震災津波で被災した釜石虎舞のほか、神楽、太鼓等の団体に対して、各種団体等からの補助等の支援活動を紹介。必要に応じて、直接市からの補助金等の支出についても検討しながら、失った機材や活動場所等の確保を図った。 <input type="checkbox"/> 助成状況 ・郷土芸能復興支援事業：錦町虎舞（保管庫整備） ・アサヒグループ：本郷御神楽	<input type="checkbox"/> 令和元年度も各種助成金を活用して実施する。

<p>文化財の調査と指定文化財の復旧</p>	<p><input type="checkbox"/> 埋蔵文化財保存事業 地域社会の歴史をあとづける貴重な文化遺産であり生きた学習の場を提供する埋蔵文化財が永久に失われてしまうことを避けるため、記録保存を行う。 各種開発行為に係る照会等に対応した。また、復興事業（区画整理事業等）や個人住宅建築等に伴い、事業予定地内に存在する埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の試掘調査と発掘調査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○埋蔵文化財包蔵地（遺跡数） 316遺跡 ○埋蔵文化財照会 167件 ○慎重工事 9箇所 ○立会調査 10箇所 ○試掘調査 6箇所 ○本発掘調査 3箇所 ○市内遺跡分布調査 縄文時代中期遺跡の分布調査 <p><input type="checkbox"/> 屋形遺跡貝塚保存活用事業 平成27年度の緊急発掘調査で出土した縄文時代の遺物（土器・石器・骨角器・貝類・魚骨類）を包含する屋形遺跡の貝塚について、専門家の意見を伺いながら、保存・活用をすすめた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 平成30年度第1回屋形遺跡調査指導委員会 開催日 平成31年3月27日（水） 会場 教育センター ② 範囲内用確認調査。 期間 平成30年7月11日（水）～8月21日（火） 内容 国指定史跡を目指し、調査及び測量を実施する。 ③発掘調査報告書の作成 屋形遺跡発掘調査報告書刊行 <p><input type="checkbox"/> 史跡等周知促進事業（交付金事業） 東日本大震災において被災した市指定文化財の修復を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平田御番所跡 流出した標柱等の設置場所の調整 ○津波記念碑 修復について検討 <p><input type="checkbox"/> 被災文化財調査事業（復興関連） 東日本大震災とその後の余震により、流出、倒壊、損傷した文化財については、平成24年度から被災地域の文化財の被災状況調査を実施した。平成30年度も文化財の被災の有無・現状の調査を継続した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○津波記念碑 <ol style="list-style-type: none"> ①鵜住居常楽寺内の1基所在不明 ②倒壊等要修復 片岸町室浜/転倒2基、箱崎町大仮宿/転倒3基、唐丹町本郷/破損1基 ○鵜住居・片岸・唐丹地区の石碑 石碑の所有者等の意向により暫時、設置中（復興推進本部ほか） ○平田追分の碑 平田地区生活応援センター敷地内に設置を調整中 ○鎌崎砲台場の標柱等再設置 	<p><input type="checkbox"/> 復興事業及び復興に伴う個人住宅の建築を停滞させることの無いよう、全力を挙げていく。また、調査で得られた文化財やデータなどを、現地及び郷土資料館の企画展などで発表・展示し市民への周知を図る。</p> <p><input type="checkbox"/> 令和元年度は国指定史跡を目指す範囲の調査と測量を実施する。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業にあたっては、浸水区域内の復興事業の進捗状況を勘案し、浸水区域外にある損壊した文化財、史跡等の修復にも取り組んでいく。</p> <p><input type="checkbox"/> 対象を東日本大震災に限らず風水害等によるものとし、文化財目録の洗い出しを行い、貴重な文化財の発掘及び指定促進を図る。</p>
------------------------	--	---

□ 文化財標柱設置事業
 市内に点在する文化財や伝承される文化財を、市民に周知し、保護・保存の意識を促すことを目的に標柱を設置した。

○標柱作製
 作成箇所 明神かつら、古里の御神楽スギ、和山のシナの木、鞭牛屋敷跡、砂子畑銭座跡
 作成本数 8本（5ヵ所）

□ 文化財保護事業
 釜石市にある文化財の適正な保護と活用を図るため、文化財保護審議会を開催して、文化財の指定等の諮問に対する答申などを受けた。

また、指定・未指定にかかわらず、被災地域を中心として文化財目録の洗い出しを行い、貴重な文化財の発掘及び指定促進を図った。

○文化財保護審議会の開催

第1回 開催日 平成30年4月24日（火）
 会 場 教育センター
 内 容 ①平成29年度文化財保護と活用事業の実施状況について
 ②平成30年度文化財保護と活用事業の計画について
 ③平成30年度釜石市文化財指定推進物件の取扱いについて

第2回 開催日 平成31年2月7日（木）
 会 場 教育センター
 内 容 ①平成30年度釜石市文化財指定推進物件について
 ②第18回有形文化財公開事業「指定文化財展Ⅲ」の開催結果について

第3回 開催日 平成31年3月15日（金）
 会 場 教育センター
 内 容 ①平成30年度釜石市文化財指定推進物件について

○文化財パトロール
 開催日 平成30年7月2日（月）
 実施場所 ①明神かつら、②上栗林のサクラ、③牧庵鞭牛 隠居屋敷跡、④古里の御神楽スギ、⑤和山のシナノキ

○文化財調査事業 通年/市内全域
 [内容] 市内の指定文化財の保存と維持管理、史跡の保存及び景観の保持、文化財指定の促進
 ・釜石市文化財保護審議会委員による調査
 ・各種関係団体による調査への協力
 ・教育委員会総務課職員による調査

[新規指定文化財]
 ・「屋形遺跡 貝塚」

[指定・登録文化財件数]
 ・文化財指定件数(国・県・市) 計69 件
 国指定文化財 2 件
 県指定文化財 6 件
 市指定文化財 61 件
 ・国登録有形文化財（建造物） 1 件

□ 引き続き文化財標柱及び説明板を設置する。

□ 引き続き、文化財保護審議会を開催する。また、市内の文化財の掘り起こし、新規指定に取り組んでいく。

□特別天然記念物保護処理事業

「文化財保護法」及び「特別天然記念物の管理に関する法律」の規定により、国指定の鳥獣の保護管理と滅失した時に処理を行った。

カモシカの保護と処理

- ①出動件数 24件
- ②滅失件数 14件

□釜石市指定文化財管理委託

- 管理委託件数 59件
- 指定文化財の異動 所有者の変更 両石虎舞

□文化財所蔵資料整理公開事業

当課で管理している文化財資料を整理し公開する。

①収蔵庫整理

郷土資料館改修工事に伴い整理作業を行った。

②展示公開

郷土資料館改修工事などで、資料館での展示は行わなかったが、教育センター1階に展示した。

- | | | |
|----|--------|-------------------|
| 期間 | 5月～8月 | 有形文化財 |
| | 8月～10月 | 屋形遺跡発掘調査概要・体験学習報告 |
| | 11月～2月 | なんでも体感事業報告 |
| | 2月～5月 | 有形文化財公開事業報告 |

□出前講座事業

生涯学習文化スポーツ課で所管する生涯学習まちづくり出前講座の開催を通じて市民に郷土の歴史についての理解を促し、文化財愛護思想の高揚を図った。

生涯学習まちづくり出前講座数

- ①縄文の道具 2件
- ②釜石の歴史 7件
- ③釜石の史跡 2件
- ④その他 1件
- 合計 12件

□鉄づくり体験事業

鉄づくり体験やふるさと歴史講座を通じて、先人から受け継がれてきた「ものづくり精神」を子どもたちに伝え、ふるさとを愛する人材の育成を図った。

①鉄づくり体験（総合学習支援の一環として）

【1回目】

- | | |
|-----|--|
| 開催日 | 平成30年8月28日（火）～29日（水） |
| 会場 | 甲子町大橋旧釜石鉱山事務所横（釜石鉱山敷地） |
| 参加者 | 甲子中学校1年生 |
| 内容 | 甲子中学校では1年生が総合学習として「鉄の学習」に取り組んでいるが、鉄づくり体験は、その一環として実施したもの。 |

【2回目】

- | | |
|-----|-----------------------|
| 開催日 | 平成30年11月19日（月）～21日（水） |
| 会場 | 釜石小学校校庭 |
| 参加者 | 釜石小学校5年生 |

②鑄造体験

- | | |
|-----|---------------|
| 開催日 | 平成30年7月11日（水） |
|-----|---------------|

会 場 甲子中学校
 参加者 甲子中学校 1 年生
 ③鉄の検定
 ○受検者
 小中学生 平成30年11月26日（月）～12月6日（木）
 各学校で実施、全体で362名
 一般 30年12月 1 日
 教育センターで実施、7名
 ○表彰式
 開催日 平成31年1月12日（土）
 表彰対象者
 小中学生 1級なし 2級6名
 一 般 1級なし 2級4名

文化財なんでも体感事業
 市内各所に所在する文化財を活用し、市民に郷土の歴史への理解を促す。また、この事業を契機に文化財愛護思想の高揚を図る。

○釜石・甲子めぐり
 開催日 平成30年10月23日（火）
 案内人 加藤良司文化財保護審議会委員
 参加者 20人
 見学箇所 楽山荘・三鬼隆胸像、山神社（小川）、アーチ橋梁、定内の一里塚、甲子町宿駅跡、関沢一里塚、釜石鉱山事務所、釜石鉱山山神社、坑道見学

文化財公開事業
 釜石市内の文化財を公開し、市民が郷土にある貴重な資料に触れる機会を創出した。そのなかで郷土の歴史や文化財の重要性、保護の必要性を認識していただくとともに、郷土愛を育んだ。

平成21年度の第17回で中断していた有形文化財展を再開した。

○実行委員会
 第1回 平成30年6月27日（水）
 第2回 平成30年8月27日（月）
 第3回 平成30年11月28日（水）
 第4回 平成30年12月20日（木）
 ○第18回有形文化財公開事業
 ・期間 平成31年2月1日（金）～3日（日）9時30分～17時
 ・場所 釜石市民ホール TETTO ホール B
 ・特別講演会「我が郷土の文化財」
 講師 釜石市文化財保護審議会 会長 板澤利幸
 場所 チームスマイル釜石 PIT
 ・観覧者 1、2、3日 計323人
 ・講演会 75人

歴史はっけん事業
 地域に残る歴史・文化財の掘り起こしを行うため、講座を開催した。

○講座「読み取ろう！歴史のメッセージ」
 日時 平成31年3月17日（日）
 場所 釜石公民館
 講師 假屋雄一郎（宮古市教育委員会市史編さん）

隔年開催のため、次回の第18回は令和2年度を予定している。

釜石市歴史文化基本構想の策定を目指す。

	室長) 参加者 19名	
橋野高炉跡のユネスコ世界遺産登録の推進と近代化遺産の活用	<p>【世界遺産課】</p> <p>□「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録3周年記念事業</p> <p>○きぼうの桜植樹祭 平成30年4月14日(土) 参加者80人</p> <p>○橋野鉄鉱山八重桜まつり 平成30年5月13日(日) 参加者573人</p> <p>○みんなの橋野鉄鉱山 清掃及び講演会 平成30年6月3日(日) 参加者50人 講演 小野寺英輝氏(岩手大学理工学部准教授)</p> <p>○橋野鉄鉱山稼働時代の森づくり育樹祭 平成30年10月13日(日) 参加者55人</p> <p>○企画展「橋野鉄鉱山を知らう！」 平成30年7月4日(水)～7月16日(月) 鉄の歴史館2階会議室 見学者579人</p> <p>○鉄の週間事業</p> <p>○鉄の学習発表会 平成30年12月1日(土) 釜石情報交流センター釜石PIT 甲子中学校・栗林小学校・鶴住居小学校が発表 参加者200人</p> <p>○鉄の記念日企画展「三陸5億年の足跡～三陸ジオパークとは?～」 平成30年11月23日(金)～12月9日(日) 旧釜石鉱山事務所 2階企画展示室 見学者34人</p> <p>○第11回鉄の検定 一般 平成30年12月1日(土) 教育センター 受験者数7人、2級4人 小中学生 平成30年11月26日(月)～12月7日(金) (学校単位) 9校362人、2級小学生3人・中学生3人</p> <p>○鉄のパネル展 平成30年11月23日(金)～12月9日(日) シープラザ1階イベントスペース</p> <p>○鉄の記念日企画展「高任再考～大島高任の偉業を紐解く～」 平成30年11月23日(金)～平成31年1月7日(月) 鉄の歴史館2階会議室 見学者714人</p> <p>○平成30年度発掘調査速報展 平成30年10月23日(火)～12月9日(日) 橋野鉄鉱山インフォメーションセンター 見学者2,083人</p> <p>○鉄の記念日企画展「釜石の偉人展～明治の釜石を支えた人々～」 平成30年11月28日(水)～12月23日(日) 見学者203人</p> <p>○鉄の歴史講座(第3回、第4回図書館市民教養講座) I 平成30年11月25日(日) 市立図書館2階視聴覚室 講師 劉海宇氏(岩手大学平泉文化研究センター教授) 八木光則氏(岩手大学平泉文化研究センター客員教授) 参加者30人</p>	□鉄のふるさと釜石創造事業実行委員会として産学官連携で今後も継続的に事業を実施していく

	<p>Ⅱ 平成30年12月9日(日) 市立図書館2階視聴覚室 講師 小野寺英輝氏(岩手大学工学部准教授) 森一欽氏(釜石市世界遺産課) 参加者30人</p> <p><input type="checkbox"/>平成28年台風第10号被害に関する国史跡橋野高炉跡復旧事業 <input type="checkbox"/>見学道復旧工事(大門-水取入口の舗装;約300m) <input type="checkbox"/>二又沢川護岸復旧工事(史跡北側) <input type="checkbox"/>散策路復旧業(史跡北側) <input type="checkbox"/>復旧測量業務 <input type="checkbox"/>橋野高炉跡復旧事業報告書2の作成 300部</p> <p><input type="checkbox"/>国史跡橋野高炉跡範囲内容確認調査の実施 <input type="checkbox"/>二番高炉周辺の試掘調査 <input type="checkbox"/>運搬路跡(2)測量委託</p> <p><input type="checkbox"/>橋野高炉跡に関するアプリの開発 <input type="checkbox"/>橋野高炉跡二番高炉の映像化(二番高炉の往時の姿をCGで復元し、AR・VRにより可視的に理解増進を図った。)</p> <p><input type="checkbox"/>国登録有形文化財旧釜石鉱山事務所関連事業 <input type="checkbox"/>散策路看板のリニューアル(日・英) <input type="checkbox"/>国道283号に看板設置(松倉地区) <input type="checkbox"/>夏休み特別企画「鉱山(やま)の宝探し」 平成30年7月30日(月) 講座・岩石採集・標本作り 講師:山澤茂行氏(釜石鉱山(株)社長) 参加者25人</p>	<p><input type="checkbox"/>運搬路跡及び採掘場跡の復旧を順次実施し、報告書を作成する。</p> <p><input type="checkbox"/>二番高炉周辺の調査を継続し、整備に向けた準備を行う。</p> <p><input type="checkbox"/>発掘調査等の成果を蓄積し、バージョンアップを図る。</p> <p><input type="checkbox"/>バリアフリーを目指す。資料の充実を図る。</p>
--	---	---

3 絆と支えあいを大切にすまちづくり（基本目標2）

総合評価	
<p>・平成29年4月に新園舎が完成し、適切な維持管理により、子育て環境の改善に努めた。</p> <p>【生涯学習文化スポーツ課・図書館】</p> <p>・様々な世代、又は地域のニーズに応じた生涯学習の機会を提供することにより、学びと実践が循環する生涯学習社会の推進が図られた。</p> <p>・学校、地域及び行政の支えあいにより、子ども達が安心して学び、遊べる教育環境の確保が図られた。</p> <p>・公民館分館の老朽化が進んでいることから、維持補修を実施し利用者の安全性と利便性の向上に努めた。今後も計画的な整備、維持管理を行う必要がある。</p>	

取組項目	個別評価
1 安心できる子育て環境の整備	・鶴住居幼稚園の適切な維持管理に努めた。
2 学びが実践につながる生涯学習社会の形成	<p>【生涯学習文化スポーツ課・図書館】</p> <p>・公民館事業については、充実した各種活動により順調に利用者数が増加しており、地域コミュニティの活動拠点としての役割を果たしている。ただし、分館は老朽化した施設が多いことから、今後も計画的な整備、維持管理を行う必要がある。</p> <p>・生涯学習まちづくり出前講座、立正大学デリバリーカレッジ等の世代を超えた生涯学習事業については、順調に回を重ねており定着化が図られているが、受講者の固定化等課題もあることから、市民のニーズの把握、それに伴った事業展開が必要である。</p> <p>・教育振興運動、学校支援地域本部事業等の学校、地域及び行政が連携して学習支援、教育課題の解決に取り組む事業については、充実した活動が実施されるとともに実施校の増加等進展が図られた。</p> <p>・図書企画展や市民教養講座の開催、移動図書館車の運行、ブックスタート事業など読書活動を推進し、様々な世代のニーズに合わせた生涯学習の機会と場の提供に努めた。</p>

【取組項目】

① 安心できる子育て環境の整備

実施施策	平成30年度の主な取り組み内容と成果	今後の対応
被災した幼稚園等の整備	<input type="checkbox"/> 鶴住居幼稚園 平成29年4月に新園舎が完成し、適切な維持管理を行った。	<input type="checkbox"/> 園舎の適切な管理を行う。

② 学びが実践につながる生涯学習社会の形成

実施施策	平成30年度の主な取り組み内容と成果	今後の対応
公民館や図書館などの早期復旧	<p>【生涯学習文化スポーツ課】</p> <p><input type="checkbox"/> 公民館・分館維持管理 公民館（8館）及び分館（7館）の維持補修等を必要に応じて行った。</p> <p>○甲子公民館砂子渡分館整備事業 設計業務委託・工事監理業務委託・建設工事</p> <p>○鶴住居公民館仮宿分館 不凍水抜栓修繕</p> <p>○栗橋公民館横内分館 破損した窓の修繕</p>	<input type="checkbox"/> 公民館分館は老朽化が激しいことから、緊急度を勘案して維持補修や建て替えを行っていく。令和元年度は鶴住居公民館川目分館整備工事に係る設計業務委託を実施する。

○栗橋公民館中村分館 水道管修繕

○甲子公民館 雨漏り修繕

<公民館・分館利用者数>

22年度	23年度	…	28年度	29年度	30年度
21,397人	52,312人		68,105人	75,017人	85,308人

【図書館】

□図書館サービスの充実

各種サービスの充実を図るとともに、講演会の開催や資料の展示・提供など多様な学習機会を提供した。

○企画展：32回

読書への関心を深めるため、当館独自の企画展や県立図書館の巡回展を開催した。

・「なんのえほんかな？わくわくふくぶくろ図書展」・

「内田康夫展」・「童話作家 角野栄子展」・「文学賞受賞図書展」・「シリーズでたのしむ物語展」・「手づくり絵本展」・「かこさとし展」・「あなたの歯、大丈夫？」・「紙芝居の展示」・「七夕図書展」・「ぼんやきゅう原画展」・「夏休み、応援します。」・「ラグビー図書展—8.19スタジアムオープニング記念—」・「さくらももこ展」・「読書のすすめ シニアの図書展」・「伊能忠敬展」・「平民宰相と呼ばれた男」・「あなたのポップを募集します！」・「見つけよう！介護のヒント」・「あの人の本 本とあの人」・「イーハトーブ賢治さんってどんなひと？—」・「鉄の記念日図書展」・「クリスマス図書展」・「冬休み宿題応援図書展」・「釜石港と水産」・「わくわく！絵本の福袋」・「いわての絵暦」・「ラグビーワールドカップ2019™応援図書展」・「おいしい読み物図書展」・「啄木資料展」・「未来へ発進～震災から8年 変わりゆく釜石～」・「環・つながる釜石」

○イベント・講演会等

市民の学習活動を支援するため多様な学習の場を提供した。

《講座：8回、イベント：4回/参加者695人》

・「伊能忠敬が歩いた釜石」・「釜石小学校が残した遺産を伝えたい—昭和8年発行の『地震並津浪の常識』—」

・「岩手県郷土教育資料(昭和11年・15年)について」・

「東アジアの鉄の歴史の話」・「古代・中世の岩手県の鉄生産の歴史—沿岸部を中心に」・「考古学から見た橋野鉄鉱山」・「橋野鉄鉱山—大島高任の弟子と支援者たち」・「ラグビーワールドカップ2019™釜石開催に向かって」・「三閉伊一揆のおはなし—希望への貝吹き—」・「『ぼんやきゅう』著者お話し会」・「三陸の海を知ろうセミナー—三陸になぜサケは戻ってこなくなったのか/貝毒はなぜ発生するのか」・マジックと絵本のコンサート・夏休み読書チャレンジ・クリスマス会・宮沢賢治童話館

○ブックスタート事業：24回/283人参加

読み聞かせや絵本のプレゼントを通して、本に親しむことの大切さを伝えるとともに、親子のふれあい創出の一助とした。

・もぐもぐごっくん教室と併催・6ヶ月健診と併催

○映画会等：12回

優れたアニメ等の映画ビデオの上映を通して、図書館

利用の促進を図った。

- ・としょかん映画会：173人観覧
- 出張！図書館サービス：14回/344人参加
生涯学習文化スポーツ課やボランティア団体と連携し、図書館を利用する機会が少ない方々のところに出向き、読み聞かせやDVD等を上映した。
- 手作り絵本教室：2回（4日間）/31人参加
絵本への愛着とものを作り上げる喜び（達成感）を感じてもらう機会とした。
- 図書館こどもまつり：58人参加
多読賞の表彰、人形劇、映画上映、スタッフ体験を通して、親子で図書館に親しむ機会とした。
- 体験学習等：14回/231人参加
図書館についての理解を深めるための学習機会を提供した。
- ・中学生職場体験学習・教職経験者社会体験研修・施設見学
- 図書館報の発行：9回
図書館の利用案内や催事情報などの提供のため学校を通じて市内全小学生に「ふれあい通信」を配布した。中学生以上の方へも「もっと！ふれあい通信」の発行を開始し、館内及び各地区生活応援センターでの掲示やホームページ掲載を行い、図書館の利用促進を図った。
- 移動図書館の運行：1,941人利用/5,656冊貸出
市内遠隔地や福祉施設、学校等市内80ヶ所を巡回した。
- 団体貸出：通年/385件貸出
市内小学校や幼保施設、読書ボランティア団体などを対象に図書館資料を貸出した。
- 朗読奉仕：12回
朗読奉仕「ハマナスの会」の協力により、地元紙の一部を朗読して録音し、希望者17人に定期的に送付した。
- おはなし広場：12回/59人参加
「颯・2000の会」の協力により、来館した幼児・児童に絵本の読み聞かせを定期的に実施した。

〈図書館年間利用人数及び貸出冊数〉（移動図書館含む）

22年度	23年度	…	29年度	30年度
27,635人	22,432人		25,196人	25,199人
92,205冊	75,234冊		83,835冊	84,264冊

ライフステージに応じた学習機会の創出

【生涯学習文化スポーツ課】

家庭教育子育て支援事業

- 就学時健診を利用した子育て学習講座
元気な命のリズムは「早寝・早起き・朝ごはん」から
〔開催日/会場/対象〕
- ①11.14(水)/栗林小/栗林小9名
- ②11.27(火)/甲子小/甲子小37名 合計 46名
- 9.28(金)/沿岸南部地区子育て支援ネットワーク研修会/1名出席
- 11.21(水)/子どものまなびを支えるセミナー「青少年教育担当者研修会」(沿岸南部会場)/5名出席(放課後

小学校入学前の子どもを持つすべての保護者が一堂に会する有効な機会なので、今後も継続して実施する。次年度以降も、就学時健診を同様の方法（身体測定は合同、知能検査は学校別に実施）で行う場合、開催希望校が重複した際の調整が課題となる。

	<p>子ども教室関係者)</p> <p>□学校支援地域本部事業 地域と学校の連携・協働による子どもの学習支援体制（本部）をつくり、地域コーディネーターの配置・企画調整のもと、地域住民等からなるボランティアの参画を得ながら、学校支援活動をはじめとする様々な地域学校協働活動を行った。 30年度は本部設置増（鶴住居小学校）となったほか、令和元年度も新たに2校で実施する。 〔実施校〕釜石小学校、栗林小学校、鶴住居小学校 〔活動回数（3校）〕633回 〔地域住民等の参画人数（3校）〕延約6,480人 〔運営協議会〕</p> <p>○釜石小学校区協議会 ①5.29(火)/釜石小学校/委員等9名出席 ②2.19(火)/釜石小学校/委員等7名出席</p> <p>○栗林小学校区協議会 ①7.3(火)/栗林小学校/委員等10名出席 ②2.26(火)/栗林小学校/委員等10名出席</p> <p>○鶴住居小学校区推進会議 ①5.9(水)/鶴住居小学校/委員等10名出席</p> <p>〔研修等〕</p> <p>○学校支援地域コーディネーター等研修会 6.8(金)/県生涯学習推進センター/地域コーディネーター等3名出席</p> <p>○学校と地域の連携・協働研修会 8.7(火)/県生涯学習推進センター/地域コーディネーター、教職員等5名出席</p> <p>○視察訪問対応 8.30(木)/釜石小学校ほか/県教委職員による/2名対応</p> <p>○学校と地域の協働推進事業研修会 11.2(金)/大船渡市立三陸公民館/地域コーディネーター、教職員等6名出席</p> <p>□教育振興運動 各実践区において、5者それぞれの役割を果たしながら相互に連携して地域の教育課題の解決に取り組む活動を支援し、地域の教育力の向上を図るため、研修機会の提供、情報提供や情報交換、実践区活動再構築への支援、運営経費への補助等を行った。 〔時期〕通年 〔対象〕子ども、親（家庭）、教師（学校）、地域、行政 〔内容〕協議会総会、各実践区による活動、集約集会の開催、「情報メディアとの上手な付き合い方」の普及啓発、教振だよりの発行等</p> <p>〔研修・協議会集会〕</p> <p>○研修 ・教育振興運動市町村担当者研修会 5.16(水)/県立生涯学習推進センター/2名出席 ・地域とともにある地域づくり推進フォーラム・管内教育振興運動推進研修会 6.6(水)/大船渡市立三陸公民館/22名出席</p> <p>○協議会集会</p>	<p>□既実施校では安定継続を基本としながらも、本事業の効果や、次期学習指導要領でも掲げられる「社会に開かれた教育課程」の実現施策として、各校における本部または同等の体制の構築を図る。(R1は白山・甲子小学校で新規実施)推進にあたっては当事業の要となるコーディネーターの確保と、現在、復興関連予算で実施していることから、今後の事業予算の確保が主たる課題となっている。</p> <p>□本運動の中心となる実践区では、今後も工夫された多様な実践活動の展開が期待されるが、子どもを支える4者（親、学校、地域、行政）の関わりの強化を図りながら、本運動を通じ地域全体で子どもを育てる体制をさらに醸成していく。</p>
--	--	---

- ・釜石市教育振興運動協議会推進委員会
6.7(水)/市教育センター/17名出席
- ・釜石市教育振興運動協議会総会
6.28(木)/釜石市民ホール TETTO/57名出席
講演「スマホ・ケータイ安全教室」
- ・釜石市教育振興運動協議会集約集会
(釜石市 PTA 連合会研究発表大会と合同開催)
2.2(土)/沿岸広域振興局/108名出席
活動発表：「釜石の子どもたちの地域活動について」
パネルディスカッション：子ども・家庭・地域に関する交流セミナー「子どもたちの生活リズムについて～子どもたちが生き生きと活動するために～」

□ 放課後子ども教室推進事業

子どもたちが安心して遊び学ぶことができる教育環境を確保するため、放課後等における活動拠点（居場所）として放課後子ども教室を開設し、地域住民等の参画を得て、自由活動の見守りのほか、多様な学習機会（体験学習・スポーツ等）を提供した。

全体としては、教室1回あたりの子どもの参加人数や地域住民等からなる活動協力者（安全管理員）数は増加傾向（経年比）にあり、放課後子ども教室が子どもと地域を結び、地域の中で学び育つ場としての理解浸透が図られている。

〔時期〕 通年

〔対象〕 子ども、地域住民

〔実施回数（全教室）〕 340回

〔教室名・場所・基本実施日等〕

- ① 「ばしょまえ交流館」
釜石小学校区/カトリック釜石教会/週2回
- ② 「ふたば放課後子ども教室」
双葉小学校区/双葉小学校地域連携施設/週1回
- ③ 「小佐野放課後ひろば」
小佐野小学校区/小佐野公民館/週2回
- ④ 「平田 MOSICA」
平田小学校区/平田復興住宅集会室/週1回
- ⑤ 「かっしっこひろば」
甲子小学校区/甲子公民館/週1回
- ⑥ 「鶴住居子どもひろば」
鶴住居・栗林小学校区/仮設住宅談話室ほか/週3回

〔研修等〕

○安全管理員研修・交流会

10.17(水)/市教育センター/19名出席

【放課後子ども教室利用者数】

22年度	23年度	…	28年度	29年度	30年度
3,018人	335人		3,930人	4,435人	4,492人

□ 子どもの読書活動推進事業

学校、図書館、ボランティア団体との連携により、子どもの感性、表現力、想像力の豊かさを育む読書活動を推進した。また、研修会等へ参加し、それぞれのスキルを高めることができた。

□ 年度当初に安全管理員が減となったことに伴い、一時期、教室開催数も減となった教室もあるなど、各教室単位では種々の課題もあるため継続安定的な実施の確立や、仮設住宅を会場とする教室では、今後の地域コミュニティの再編状況にも留意し中長期的視点をもちながら実施していく。

□ 市生涯学習推進計画や第3次子どもの読書活動推進計画に基づき、各関係機関等とさらに連携強化を図り事業を推進する。当課が主体となって開

	<p>○絵本カーによる活動 市内小学校や子育て支援施設、学童育成クラブ、仮設住宅団地、放課後子ども教室など市内20カ所を235回巡回/のべ2,443名利用</p> <p>○管内子どもの読書活動推進会議 5. 9(水)/釜石地区合同庁舎/2名出席</p> <p>○読書ボランティア研修会① 6. 20(水)/県生涯学習推進センター/7名出席(読書ボランティア含む)</p> <p>○読書ボランティア研修会 8. 22(水)/大船渡市立三陸公民館/5名出席</p> <p>○読書ボランティア研修会② 9. 12(水)/ 県生涯学習推進センター/4名出席(読書ボランティア含む)</p> <p>○釜石市子どもの読書推進活動ボランティア講座(2回開催) 9/14(金)-10名 10/12(金)-11名 会場：双葉小学校 講師：おはなしの森 代表 菅原 和子 氏</p> <p>○生涯学習まちづくり出前講座 「絵本カーによる読み聞かせ」の開講 ・1. 28(月)/唐丹公民館/15名(未就園児及び唐丹児童館児童) ・5. 30(水)、7. 26(木)、10. 3(水)、11. 13(火)、1. 10(木)/平田地区生活応援センター/のべ約40名 ※事業は市民を対象として、通年募集しているもの。</p> <p>□ 国際理解支援事業 市国際交流協会との共催事業や外部からの支援事業を活用し、各種講座やイベントを実施した。</p> <p>○英会話講座 ※市国際交流協会との共催事業 講師 クリスティス・ノア・アーロン ①初級英会話講座(前期) 5. 15(火)～7. 10(火)/10:15～11:30/毎週火曜/受講者15名、のべ115名/全9回 ②初級英会話講座(後期) 10. 10(火)～12. 12(火)/10:30～11:30/毎週火曜/受講者11名、のべ100名/全10回 ③英会話広場「English Square」 5. 18(金)～7. 13(金)/19:15～20:30/毎週金曜/受講者11名、のべ71名/全9回</p> <p>○外国人のための日本語教室 5. 20(日)～3. 17(日)/10:00～12:00/毎月第3日曜/受講者28名、のべ157名/全10回 ※8. 19(日)は他イベントのため中止</p> <p>○English Camp in Iwate 2018 ※アールラム大学、岩手大学主催事業 11. 10(土)～11. 11(日)/国立岩手山青少年交流の家/市内中学生3名、市関係者2名参加</p> <p>□ こどもエコクラブ(環境課事業とも連携し実施) 自然の中での様々な体験活動を通じて、自然環境への理解を深め、環境保全に配慮した行動ができる資質を育むことを趣旨に、関係団体等の協力を得ながら実施した。 〔内容・参加者数等〕</p>	<p>催している市内の読書ボランティア対象の研修会は、ボランティアの横の繋がりが生まれる有意義な機会となっており、今後も継続的に実施したい。</p> <p>□外国人と触れあう機会となり、参加者からは継続した実施を望む声が多く聞かれている。今後も各種団体と連携し、ニーズに応えられるような講座の充実を図る。</p> <p>□主たる対象である小学生の参加が減少傾向にあるため、対象範囲や実施方法等について見直しを行い、市の環境学習事業の一環として環境課とも</p>
--	---	--

- ①「野鳥観察会」
6.17(日)/福祉の森/17名参加
- ②「ホタル観察会」
7.13(金)/小川川(ワッカラ淵)/40名参加
- ③「夏の星空観察会」
8.8(水)/市教育センター/13名参加
- ④「君こそ海博士だ！」
9.30(日)/岩手大学釜石サテライト/15名参加/岩手大学、釜援隊共催

□ 岩手大学生涯学習講座
平成30年度は実施せず。

□ 立正大学デリバリーカレッジ
市民が生涯学習に関心を持ち実践するきっかけとすることを目的として開催した。

〔場所〕 ①③岩手大学釜石教室（市教育センター5階）
②市立図書館2階 視聴覚室

〔対象〕 高校生以上の市民

〔時期及び内容〕

- ①「昭和30年代はなぜ、憧憬の対象となるのか」
講師：文学部准教授 浅岡 隆裕 氏
6.9(土)10:00~11:45/17名受講
- ②「街頭紙芝居の時代・昭和を振り返る～黄金バットから国策紙芝居～」
講師：社会福祉学部元教授 堺 正一 氏
6.16(土)10:00~11:30/23名受講
- ③「世界における日本文化」
講師：文学部特任講師 亀井 ダイチ 利永子 氏
6.23(土)10:00~11:45/18名受講

□ 生涯学習まちづくり出前講座
生涯学習意識の高揚と学習機会の提供を図り、地域課題を考える機会とし、参加団体、講座メニューともに充実を図り、定期的な利用が行われるようになった。

〔学習メニュー〕

市によるもの70講座、関係機関によるもの16団体96講座
計166講座登録

〈実施回数及び受講者数〉

22年度	23年度	…	28年度	29年度	30年度
67回	16回		79回	56回	54回
2,236人	850人		2,157人	1,607人	1,118人

□ 自主活動グループ等によるコミュニティ形成支援事業
○交流会の開催
〔時期〕 3/2、3
〔場所〕 釜石公民館
〔対象〕 復興住宅居住者など生活再建者、自主活動グループ、地区内の町内会
〔内容〕 公民館まつりを母体とし、上記対象者間の交流会を実施した。

連携し実施。運営効率もあったことから、継続し連携しながら実施するとともに、自然学習・体験から得られる有用性について、保護者等の理解の深まりを図りながら子どもの参加を促していく。

□ 大学側との協議、公民館との連携を図りながら、地域課題解消を目的とした講座実施を目指す。

□ 例年中高年齢層が多くを占めることから、特に若者世代への周知や、卒業後の進路を考える市内高校生が参加しやすいテーマを考慮する等の必要がある。

□ 今年度から、介護予防や感染症予防等の福祉・健康に関する講座を新たに追加するなど充実を図った。よりよい講座の実施を目指して、周知及び利用方法について、利用者目線で検討していく必要がある。

□ 生活再建の中で新たなコミュニティづくりが課題となっている。今回、開催した事業によりコミュニティづくりの一助となったことから、今後も継続して実施する。

4 教育行政に関する事項

主な項目	平成30年度の主な取り組み内容と成果	今後の対応
教育行政	<p>□ 教育行政の執行に当たっては、5人の委員で構成される合議制の執行機関として、毎月の定例会議のほか必要に応じて会議を招集するとともに、学校訪問の実施や各課の事務の取り組み状況の把握を行った。</p> <p>また、新しい教育委員会制度に対応した総合教育会議を開催し適切な執行管理に努めた。</p> <p>(教育委員会議定例会) 12回開催 (教育委員会議臨時会) 2回開催 (総合教育会議) 2回開催 (委員会議以外の主な活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校訪問 6.28(木)/栗林小学校、7.5(木)/釜石中学校、 ・ 学校公開 9.21(金)唐丹小学校・唐丹中学校、11.1(木)/甲子小学校 ・ 「いわて教育の日」記念行事への参加/ 10.31(水) ・ 教育研究所研究発表会/1.11(金) ・ 市町村教育委員会協議会教育長教育委員研修会 /2.8(金) ・ 入学式、卒業式、成人のつどい ほか <p>□ 市民への教育行政全般に関する情報提供を行うため、「教育広報」を11月と3月に発行し、市内全戸に配布した。</p>	□ 総合教育会議の充実
教育振興基金寄附金	<p>□ 釜石市の教育振興と児童・生徒を応援するためにと、全国から寄附金が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 30年度寄附金13件 (内訳：団体8件 個人4件 ふるさと寄附金分1件) 合計 12,055千円 	□ 釜石市教育振興基金に積み立て、その後寄附者の申し出に沿った事業に活用する。

5 資料

平成29年度から組織機構の見直しにより、教育委員会の事務の一部を市長部局へ移管しました。

以下の事業は点検評価の対象とはなりません、事務の継続性を確認するため掲出しております。

基本目標7 歴史文化やスポーツを生かしたまちづくり

【取組項目】

① 歴史遺産の活用と芸術文化の振興【生涯学習文化スポーツ課】

実施施策	平成30年度の主な取り組み内容と成果																		
郷土芸能の伝承や芸術・文化活動への支援	<p><input type="checkbox"/> 岩手県青少年劇場開催事業 優れた舞台芸術の鑑賞を通じて、児童の豊かな情操の涵養と健全育成に取り組んだ。</p> <p><input type="checkbox"/> 本公演 〔時期〕 6.19（火） 〔場所〕 釜石市民ホールTETTO ホールA 〔対象〕 市内小学校5,6年生 458人 〔内容〕 器楽「みんなで楽しくハーモニー『レスパス』弦楽四重奏コンサート」</p> <p><input type="checkbox"/> 伝統文化こども教室事業 今年度も昨年度に引き続き5団体が教室を開催することができた。教室の指導者養成や児童生徒、運営資金の確保が課題である。 〔時期〕 通年 〔場所〕 市内 〔対象〕 市内の小学校から高等学校までの児童生徒 〔団体〕 釜石市裏千家茶道子ども教室、釜石市表千家茶道子ども教室、釜石草月会、杵家会釜石支所、日本将棋連盟釜石支部</p> <p><input type="checkbox"/> 釜石市民芸術文化祭開催事業 日々活動を行っている芸術文化団体の成果を発表するとともに、未来を担う子どもたちの芸術文化にもスポットを当て、展示や発表を行うことができた。 震災後、29年度までは会場を変えながら開催してきたが（H23～24：中妻体育館、H25～29：シープラザ遊およびその周辺）、30年度は初めて釜石市民ホールを会場として開催し、入場者は昨年を大きく上回った。 30年度実施した内容を踏まえて、舞台発表や展示の方法を吟味し、訪れる方が観賞しやすく、また、今後も継続可能な運営手法を検討していく必要がある。 〔時期〕 11.2（金）～4（日） 〔場所〕 釜石市民ホールTETTO 〔対象〕 市民、釜石市芸術文化協会加入団体 〔内容〕 絵画、書、切り絵、生け花等の展示、バレエ、尺八、大正琴等のステージ発表 <市民芸術文化祭参加団体、入場者数></p> <table border="1" data-bbox="336 1644 1139 1753"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>…</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加団体数</td> <td>32団体</td> <td>24団体</td> <td></td> <td>39団体</td> <td>34団体</td> </tr> <tr> <td>入場者数</td> <td>4,817人</td> <td>1,357人</td> <td></td> <td>1,261人</td> <td>1,767人</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 郷土資料館管理運営事業 釜石市郷土資料館の収蔵資料（被災資料保存事業により保存・修復処理した資料を含む）について、通年で整理・分類を行った。また、通常展示とは別にテーマを設けて企画展を行い、展示スペースの関係上、普段は未公開となっている資料が市民の目に触れる機会を作った。 〔時期〕 通年（企画展は年5回） 〔内容〕 収蔵資料の保存・管理、展示公開、データベースの整理、資料貸出し</p>	年度	22年度	23年度	…	29年度	30年度	参加団体数	32団体	24団体		39団体	34団体	入場者数	4,817人	1,357人		1,261人	1,767人
年度	22年度	23年度	…	29年度	30年度														
参加団体数	32団体	24団体		39団体	34団体														
入場者数	4,817人	1,357人		1,261人	1,767人														

<郷土資料館利用者数>

年度	22年度	23年度	…	28年度	29年度	30年度
団体数 (人数)	57団体 (3,855人)	13団体 (455人)		76団体 (1,314人)	33団体 (563人)	30団体 (507人)
利用者数 合計	5,540人	786人		5,191人	2,249人	3,079人

(※29年度は改修整備工事のため、H29.10.1からH30.3.31まで一時休館)

(※30年度は館内展示準備のため、H30.4.1からH30.5.31まで一時休館)

<所蔵資料件数>

8,028件(平成31年3月現在)

□郷土資料館改修整備事業

昨年度実施した改修工事(既存展示室内のトイレ、天井、空調設備の設置、屋根補修)を踏まえ、30年度は、東日本大震災からの復興に関連した展示を行うため、展示スペースの拡張工事を実施した。

[工事期間] H30.12.17(月)～H31.3.8(金) ※工事期間中も開館

[場所] 釜石市郷土資料館

[内容] 展示スペース拡張、企画展示室の改修(天井、壁)

② スポーツの推進とスポーツ施設の拠点化【生涯学習文化スポーツ課】

実施施策	平成30年度の主な取り組み内容と成果																																																
スポーツを通じた市民の健康づくりの推進	<p>□ スポーツ推進委員派遣事業 スポーツ推進委員を地区行事やPTA 行事、親子レクリエーション等へ派遣することで、健康づくりとスポーツの普及を図った。</p> <p><講師派遣事業実施件数と参加者、推進委員数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>…</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23件</td> <td>9件</td> <td></td> <td>16件</td> <td>25件</td> <td>10件</td> </tr> <tr> <td>739人</td> <td>496人</td> <td></td> <td>559人</td> <td>540人</td> <td>397人</td> </tr> <tr> <td>26人</td> <td>25人</td> <td></td> <td>27人</td> <td>27人</td> <td>22人</td> </tr> </tbody> </table> <p>□ 健康づくりによる復興コミュニティ形成支援事業 27年度までは「被災者健康づくり事業」として実施してきたものを、28年度は被災者支援総合交付金を活用して「仮設団地等における健康支援事業」として実施。指導員4名体制で仮設団地等を訪問し、市民の健康づくりのため健康体操教室などを行った。 30年度は、仮設住宅から復興住宅及び自立再建への移行が最終フェーズを迎えていることを踏まえ、対象の重点を復興住宅入居者及び自立再建者として事業を実施した。</p> <p><健康支援(健康づくり)事業参加者数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>…</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-人</td> <td>235人</td> <td></td> <td>8,100人</td> <td>10,389人</td> <td>9,225人</td> </tr> </tbody> </table> <p>□ 第44回釜石健康マラソン大会 市民参加型のイベントであり、健康増進の一助として釜石市球技場(周辺)を会場に実施した。</p> <p><健康マラソン大会参加者数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>…</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>753人</td> <td>574人</td> <td></td> <td>463人</td> <td>427人</td> <td>339人</td> </tr> </tbody> </table>	22年度	23年度	…	28年度	29年度	30年度	23件	9件		16件	25件	10件	739人	496人		559人	540人	397人	26人	25人		27人	27人	22人	22年度	23年度	…	28年度	29年度	30年度	-人	235人		8,100人	10,389人	9,225人	22年度	23年度	…	28年度	29年度	30年度	753人	574人		463人	427人	339人
22年度	23年度	…	28年度	29年度	30年度																																												
23件	9件		16件	25件	10件																																												
739人	496人		559人	540人	397人																																												
26人	25人		27人	27人	22人																																												
22年度	23年度	…	28年度	29年度	30年度																																												
-人	235人		8,100人	10,389人	9,225人																																												
22年度	23年度	…	28年度	29年度	30年度																																												
753人	574人		463人	427人	339人																																												

□ スポーツ施設利用状況
 <スポーツ施設利用者数>

22年度	23年度	…	28年度	29年度	30年度
158,535人	81,540人		148,747人	143,975人	132,714人

□ スポーツ団体及びスポーツ少年団関係
 <スポーツ団体数(上段)及びスポーツ少年団数(下段)>

22年度	23年度	…	28年度	29年度	30年度
37団体	37団体		37団体	37団体	37団体
34団体	34団体		25団体	26団体	24団体

スポーツ施設の拠点化とスポーツイベントの誘致

□ スポーツ施設の整備

東日本大震災により被災した市民体育館を、平成31年度までの債務負担により整備着手した。(着工：平成30年7月)

<事業内容>

- 釜石市民体育館建設工事監理業務委託
- 釜石市民体育館建設(建築主体)工事
- 釜石市民体育館建設(電気設備)工事
- 釜石市民体育館建設(機械設備)工事

□ 各種イベントの開催及び支援

○釜石ラグビィグドリーム2018

〔期日〕8.11(土)

〔場所〕釜石市球技場

〔内容〕釜石SW-栗田工業の無料招待試合

釜石商工・釜石高校-盛岡工業の交流試合

小学生ラグビー大会(東海市、宮古市、北上市、釜石市)

〔参加者〕850人(観客650人、関係者200人)

○各種大会等への支援

- ・第53回岩手県弓道釜石大会 50千円
4.29(日)
- ・岩手県古希軟式野球大会 50千円
5.22(火)~24(木)
- ・第2回釜石オープンウォータースイミング2018根浜 650千円
8.4(土)~5(日)
- ・東海市スポーツ交流事業(ラグビー) 509千円
8.10(金)~12(日)
- ・第24回釜石はまゆりトリアスロン国際大会 1,100千円
9.1(土)~2(日)
- ・第35回全国ビーチボール競技大会 50千円
9.8(土)~9(日)
- ・第3回北海道・東北地区クラブ交流大会(野球) 50千円
9.29(土)~30(日)
- ・第11回鉄と魚とラグビーのまち釜石潮騒ウォーク 50千円
10.20(土)
- ・第9回かまいし仙人峠マラソン大会 4,300千円
10.27(土)~28(日)
- ・第13回釜石市長杯スポーツチャンバラ大会 50千円
2.17(日)
- ・第31回昭和新山国際雪合戦大会 50千円
2.23(土)~24(日)

「平成30年度教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価報告書」 有識者からの意見聴取会意見（要点）

有識者からの意見聴取会を開催し、教育委員会が取りまとめた点検・評価調書に基づき、3つの基本目標、その目標に係る5つの取組項目について、自己評価の妥当性及び今後の教育施策の推進に向けて御意見をいただいた。

- 1 開催日時 令和元年9月13日（金）16時33分～17時48分
- 2 会 場 釜石市教育センター 2階 教育委員会室
- 3 委 員 柏崎 未来さん（一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校理事）
蟹江 美幸さん（いのちをつなぐ未来館（株式会社かまいしDMC））
久保 知久さん（釜石市文化財保護審議会副会長）
佐々木 幾子さん（釜石保育会副会長）
高橋 勝さん（釜石市小中学校長会会長）
浅田 裕一さん（釜石市PTA連合会会長）
※欠席 佐々木 幾子さん、浅田 裕一さん

4 意見の聴取方法

- (1) 点検・評価調書を事前に配布し、あらかじめ内容を確認していただき、当日の会議において意見を伺った。
- (2) 妥当性については、「概ね妥当な評価である（概ね自己評価のとおりである）」、「やや妥当でない（やや違っている）」、「全く妥当でない（全く違っている）」のいずれに該当するかという観点からを中心に意見を伺った。

5 意見の概要

(1) 強く生き抜く子どもを育てるまちづくり（基本目標6）

- ①地域との協働による特色ある教育活動の展開
- ②生活・防災拠点としての教育環境整備

妥当性について	概ね妥当な評価である（概ね自己評価のとおりである）
主な意見	<p>○いのちの教育について、色々と実践しているが、いのちをつなぐ未来館ができたので、これを効果的に学校の教育の中に活用していくのが大事だと思う。</p> <p>○語り継ぎの部分も大事にしていきたい。大震災かまいしの传承者に学校にきて話してもらおうとか、当時、中学生・高校生だった方々は、現在、社会人・大学生になっていると思うので、その方々が語ってくれて、そういった方々のリスト等があれば、学校でも積極的に活用できる。</p> <p>○かまいし絆会議の取り組みはどれをとってもいいと思う。ラグビーワールドカップが終わってもこの仕組みがあるといいし、地域を盛り上げてほしい。</p> <p>○防災訓練を各学校で実施しているが、内陸の学校は洪水や火災等へ対応した訓練も必要となってくるのではないかと。海に近い学校の小学生へは、登下校時の避難訓練（実施しているところもあるが）も必要だと思う。学校を離れた際の自主的な避難を教えた方がいいのではないかと。</p> <p>○ラグビーかぼちゃだけでなく、地場産物を給食に使うことにより、地元食材への関心、生産者への感謝の気持ちが育ち、それが食育につながると思うので、続けてほしい。</p>

(2) 歴史文化やスポーツを生かしたまちづくり (基本目標7)

①歴史遺産の活用と芸術文化の振興

妥当性について	概ね妥当な評価である (概ね自己評価のとおりである)
主な意見	<p>○審議会委員として市の文化財に対する認識を深めてほしいと思っている。本当にいいものがたくさんあるので、啓発普及を審議会として目指しているところである。</p> <p>○郷土芸能祭や有形文化財展は隔年で実施しているが、有形文化財展は審議委員の解説があり、詳しく説明したので、ただ展示するだけではなく良かった。</p> <p>○各地域に東日本大震災の津波慰霊碑等ができています。津波を知らない子どもたちにみせてほしい。石碑は残るものだから、作った人の思いや意味を伝えてほしい。</p> <p>○釜石虎舞、神楽などが盛んになり嬉しく思う。郷土芸能の伝承や芸能文化活動への支援を継続してほしい。</p>

(3) 絆と支えあいを大切にすまちづくり (基本目標2)

①安心できる子育て環境の整備

②学びが実践につながる生涯学習社会の形成

妥当性について	概ね妥当な評価である (概ね自己評価のとおりである)
主な意見	<p>○子どもの読書活動推進事業は、子どもの完成、表現力、想像力の豊かさを育む読書活動の推進であり、こういった取り組みを続けてほしい。</p> <p>○学校支援地域本部事業であるが、釜石もこれからコミュニティスクール (学校運営協議会制度) を進めていくようになると思うが、他市の状況を聞くとコーディネーターの役割が大事になってくるようである。今後を見据えてコーディネーターの確保や育成が必要になってくるのでお願いしたい。</p> <p>○学校支援地域本部事業は学校ごとに特色があると感じている。地域が関わる良いきっかけになっているので、こうした活動は釜石全体で出来れば良いと思う。</p>

6 その他 (全般を通しての意見) 特になし